

平成 28 年度 第 2 回飯田市公民館運営審議会記録

- 日 時 平成 29 年 3 月 23 日（木）15:00～17:00
- 会 場 飯田市公民館 2 階展示室
- 出席者 （委員）長谷部会長、細山副会長、北原委員、近藤委員、宮坂委員、小林賢二委員、
武分委員、長谷部委員、増田委員、桑原委員、篠田委員、小林敏弘委員、
木下委員、鳴海委員
（欠席委員）原委員
（事務局）平田館長（飯田市公民館長）塩澤館長（館長会副会長）、
木下副館長、木下管理係長、氏原学習支援係長、小島一人主事

1 開会（事務局）

ただ今より平成 28 年度第 2 回公民館運営審議会を開催する。公民館運営審議会は、社会教育法第 29 条に規定されている。当市においては公民館条例第 4 条に規定されており、この審議会は館長の諮問に応じ、公民館における各種の事業の企画実施について調査審議をいただくもの。審議会は、委員の過半数の出席が必要であるとなっており、本日 14 人中 13 人の委員に出席いただいており、この会議は成立する。

2 運営審議会長（長谷部会長）あいさつ

今回は、二回目の運営審議会となる。前回の運営審議会では、飯田市公民館での 1 年間の計画をお話いただいた。今回は、1 年の計画に基づく実施内容をお話いただき、特に運審委員の皆さんにお諮りしたいことを出していただき、館長の諮問に応じてお答えしてくということにしたいと思う。事前に資料をお送りいただいているので、説明はできるだけ簡略化し、また、座長に副会長細山さんをお願いしたい。

3 飯田市公民館長あいさつ（平田館長）

こんにちは。春が訪れ、よい季節となりました。日ごろから飯田市の公民館の活動、そして 20 地区の公民館の活動に対しまして、委員の皆様には大変お世話様になっていますことに改めて感謝申し上げます。飯田市の目標であるふるさと学習は、飯田市の市政にとっても教育委員会としても重要な事業となってきました。子どもたちが地域に愛着を感じ、誇りをもてるような事業展開ができていることについて申し上げます。

伊賀良小学校 6 年生の様子。伊賀良のことを学んできて、地域を探検し、知る楽しさがわかってきた。「伊賀良の良さを知らない人に教えてあげたい。」「伊賀良を離れても思い出して忘れないようにしたい。」「地域の方々への感謝も忘れないようにしたい。」「何も知らなかった僕が、地域の人のおかげで知ることができた。大人になったら今度は僕が子どもに自信をもって教えてあげられるようにこれからも調べていきたいと思う。」「地域の皆さんありがとうございました。これからもいろんなことを教えてください。」と一人一人の子どもたちが感想を述べてくれている。大人の学びを子どもたちへ伝えていくことの大切さを感じている。

すべてが揃う豊かな時代に、このような体験を通して、これからの時代を切り拓く力をつけていくことが求められている。新聞の記事に PTA が学校へ期待することというものが載っていた。受験に役立つが 70%、主体的に行動できるようになる 89%、物事を多角的に見られる 88%、苦しみや辛いこと、課題解決ができる 86%とありました。一時の受験＝子どもの幸せとあった中学生の親の考えが時代とともに少しずつ変わってきていると読んだ。成長社会から成熟社会へと変化し、物事の本

質を求める教育の質が変わってきていると感じる。主体的に行動できる子どもを育てていくことが学校、家庭、地域に求められていると思う。本日は委員の皆様からご感想やご意見、ご示唆を賜り、公民館も一層成長できたらよいと考えている。本日はよろしくお願いいたします。

4 審議事項（司会進行 細山副会長）

(1) 平成 28 年度の飯田市公民館活動の報告

※飯田市公民館及び 20 地区公民館事業について、事務局より平成 28 年度公民館活動記録に基づき概略説明と重点的に取り組んだ事業について報告。

（細山副会長）テーマを次の 4 つに絞って意見をいただきたい。

- ①公民館大会について
- ②高校生との関りについて
- ③コミュニティスクールと公民館の関りについて
- ④高齢者を対象とした事業展開について

①飯田市公民館大会について

（桑原委員）基調講演、ホール会場が狭い。参加者数も増えているため限界ではないか。

（小林委員）ムトスの表彰が長く分科会の時間が短いとの意見もある。工夫が必要。

（木下委員）第 6 分科会に出席した。ムトスと学校現場のアクティブラーニングは狙うところが主体性・実践を尊重するところで共通しているので、多くの先生方に出席していただきたかったが、一人も無かった。参加すれば、アクティブラーニングについて理解を深めることができたと思われたが残念。組織と組織の横のつながりが欠けているので参加が無かった。共通性があるのだから、事前にお互いに意識的に組織の交流を持つべきと感じた。

（細山委員）分科会に必要な人に出ていただくために、組織的に声がけをすべきとのご意見。特に学校との連携が大事。

（増田委員）ムトスの分科会は、毎回まとめないよう終わりにしているが、次の段階にきており、さらに議論を深めたいと思う。

出てくる課題が毎年同じで、担い手の高齢化と資金不足である。それぞれの団体の課題ではあるけれど、もう一方で公民館の担い手不足も一緒である。他の分科会はテーマが絞られているのでまとめやすい。ムトスは人数も多く大変だが、成果を参加者の方に持ち帰るような内容とできるよう、一緒に考えていきたいと思う。

（細山委員）分科会の運営と大会そのものを継続させていくための担い手についてのご意見。

（長谷部会長）第 4 分科会へ参加した。二つの事例がとてもよかった。加えてグループで分けて話し合いができたことが良かった。各グループで出た内容をどう整理するかが、館長会・主事会の力量と思う。まとめをどこへ落とすのかを論議してほしい。

（小林賢二委員）漢字一文字で考える方法は良かった。

（細山委員）分科会の進め方について、新しい方法があったということ。進め方で気が付いたこと、記録を大事にされているが、運営側が振り返りをしているのか。

（鳴海委員）公民館大会は 1 年間の集大成。分科会の組立にあたっては、何度も議論をされてきている。記録を丁寧に書いているし、アンケート集計もある。この記録・アンケートをもとに各地区で共有、利用できるようフィードバックしたい。限られた時間の中では、すべて満足することは難しい。ムトスの飯田賞の発表もこの資料にあるとよい。

（小林賢二委員）ムトスの分科会だけが資料配布やまとめがないので、せめて第 6 分科会の抜粋が

ほしい。話題提供とグループワークの内容がかみ合わないところもある。ムトス交流会を発展させ、公民館大会とは別にすることも必要かもしれない。

(桑原委員) 個で活動している方と公民館との接点がない。参加した公民館委員の中には、個の活動が新しい展開のヒントとなることのあるとの感想があった。第6分科会を公民館活動の新しい風を入れるための位置づけとすると良いと感じた。課題について話そうとしても、参加者の減少や担い手不足に毎回になってしまう。テーマを絞るとすれば、個の活動と公民館活動がどうすればお互いに連携できるかの話ができれば有意義ではないか。

(細山委員) 一緒にやることの意義についての意見であった。

②高校生とのつながりについて

(桑原委員) 地域人教育では、公民館が大きな力となっている。明らかに前後で高校生が変わってきている。今後高校側の体制の整理ができるかどうか心配。公民館側が働きかけるべきである。成果の発信を高校側にしていくことが必要。他の学校の生徒が入っていけない。阿智高校の展開もあるので、風越高校国際教養科や他の学校などに声をかけていくことができるとかなり効果が上がるのではないかと思う。

(武分委員) カンボジア・スタディツアーは良い取組と思うが、なぜカンボジアなのかを教えてください。

(木下副館長) もともとは、前伊澤教育長が下伊那農業高校の校長だった頃から、ロータリークラブの活動との協働ではじまった。高校生に海外での経験をさせることが大事ではないかと考える中で、たまたまカンボジアの学校づくりに携わるようになった。ポルポト政権で知識層が虐殺され、教育環境、医療環境が失われたカンボジアを立て直すためには、まずは教育からということで、ある地域に学校をつくるという取組を十数年前から始めておられる。現地に日本人でカンボジアの発展に関わっている大勢の人たちとのつながりがあったので、このような地域であれば、飯田から高校生を連れて行っている人々との出会いをつくることのできるだろうということで選択した。当時、市の企画課では先進国視察という市民ツアーを組んでいたが、目的が形骸化していたため、教育的な目的で実施するよう、公民館で高校生を対象として展開することとした。

また、当時から高校生教育については、公民館が地元を学ぶ学習として実施していたが、展開がむずかしく行き詰まりを感じていた。カンボジアに行くことを一つの目的として、その目標に向かうプロセスの中で外国と比べることで地元について考えていく機会をもつこととした。グローバルな視点とローカルな視点を組み合わせた学習を提供することで、高校生が自分自身の進路を考える学習の機会にしていこうとしたことが背景にある。

(武分委員) カンボジアの歴史的背景を知り、現状どうなのかを学んでいくことが今の時代に意義のあることと感じた。地元のことを勉強した上で行くとなっているが、学習会の内容では支援や交流の学習もしているようである。カンボジアは今も地雷が埋まり、義足や義手などの医療福祉が進んでいることが国際的に注目されている。将来カンボジアとつながりをもって学んでいくことは、大きな意味をもつ。カンボジアの絹織物の復興を日本人がしているということもあるので、文化、社会や歴史を学ぶよい機会。目的意識をもって事前学習をし、これからの国際交流の在り方を考える上でも、目的の再構築をしていくことが大事と感じた。カンボジアにこだわるのが大事。継続して行ってほしい。

(木下副館長) 市では、参加高校生に必要な経費の半額の補助をしている。参加できる生徒に限られる。アルバイトをして参加する子もいて、前向きである。今年も現地へ行って交流するための準備を毎日のように公民館でしている。高校生には、主体として参加する気構えがある。振り返りも大事にしている。報告会のご案内をするので、参加いただきたい。

(細山委員) 阿智高校、女子高など、高校生との連携の一覧があると、すそ野が広がっていくのではないかと思う。

③コミュニティスクールについて

(宮坂委員) 三穂小学校では、参観日の後にコミュニティスクールの17名の運営協議会メンバーに今年度の取組と来年度に向けての課題について、子どもたちの姿からの議論をいただいた。その中で、あいさつ、下級生・上級生とのつながりについて、社会へ出た時の強さを養っていく取組ができないかとお話をいただいた。学習支援や学びの場へつながっていくものと考えており、地域と学校と保護者が一緒に考える機会となっている。

(近藤委員) 私たち婦人会では、あいさつが大事ということで、各地区で年間を通じてあいさつ運動に取り組んでいる。あいさつ運動を中心にコミュニティスクールにも関わっていきたいと考えている。

(長谷部会長) コミュニティスクールの推進には、公民館の館長と主事がどれだけ関わっていけるかがポイントと思っている。

(北原委員) 地域としては、公民館が中心となって、学校を支援していくこととしているが、一緒に進めていくためには、特に学校側、先生方の熱意が大事であると考えている。

(細山委員) 学校側の熱意、館長・主事の関りが重要とあったが、館長・主事の研修は進められているか。

(木下副館長) コミュニティスクールを進めていくための事例として紹介したい。高校生教育のOIDE長姫高校の授業では、先生と公民館主事が一緒につくるという試みがあり、一人の生徒の変化を見ることができている。この生徒たちを先生と主事、地域の人がどのように育てたらよいかという教育的な視点が公民館主事にも育ってきている。小中学校の子どもたちをみる眼差しがかわってきており、教育に対する意識が高まってきていることは、コミュニティスクールを進めていくうえで重要である。

日常の研修としては館長会や主事会で実施した積み上げがあり、成果もあがってきていると感じている。

(宮坂委員) 飯田市公民館大会で三穂小学校の伊豆木人形クラブについて卒業生の話を取りあげた。校長講話でも取り上げた。現在6年生が一人しかいないクラブである。今田人形を4体お借りして実際に人形に触れてみた。今田人形は三人で動かしてようやく人形としての表情が出る事を学んだ。誰とでも協力する事を学び、やってみたいという児童も出てきた。公民館とのつながりを持つ中で、このことが実現できた。

また、5月のボランティアとの顔合わせでは、学校ができること、地域ができることのすりあわせの時間が持った。学校と地域がみんなで子どもに関わる事が、この地域に誇りを持つ子どもに育てていくことにつながると感じた。

(塩澤副会長) コミュニティスクールとは何か。ということが公民館委員や地域の役員の中からできてきている。コミュニティスクールについて地域で知っていただかなければならない。公民館の企画委員会で2回、また地域自治会の皆さんにお話をした。座光寺の子ども

を語る会という 10 年前にできた組織があり、ここ 3 年間は、学校を応援するために私たちができる事を考えてきたので、そのまま学校支援につながってきている。子ども見守り隊 30 人、習字 2 人、読み聞かせの皆さん 9 人がいるが、この他に募集をしたところ、13 人の応募があった。英語が得意など。今年度中は、コミュニティスクールへの理解を進め、4 月からは実際の学校支援について地域で相談しながら進めたい。

④高齢者の取組について

(長谷部会長) 2 つの点について述べる。1 つは、各地区保健師が実施しているさわやか健康教室である。歩いて行ける範囲で活動が行われている。公民館が保健師と一緒にあって、高齢者のための教室を開催したらよいと考える。

もう 1 つは、飯伊地区のシニア大学という 120 人ほどの参加の講座が月 2 回 2 年間の教室としてある。グループ発表会に圧倒された。考えてみれば、高齢者は、現役時代には優れた実績をもち、現在は時間と若干のお金もある。学んだ事を自分の地区で活かす事が課題である。高齢者と地域とをつなげたら、さらに高齢者の学びが広がっていくと考える。公民館の果たす役割は大きいと考える。

(篠田委員) 羽場地区では集会所で昼食会を実施した。お昼を食べた後に健康教室を年 2 回実施した。旅行には行けないが、地域の皆さんと出会って楽しむ。各地区で歩いていける程度の小さい単位でできたらよいと考える。

(小林賢二委員) 華齢なる音楽祭を実施した。60 歳以上が参加資格。スタッフにはシニア大学生や高校生をお願いをしている。高齢者と高校生とのおもしろいつながりができてきている。出演者はいきいきとしている。合唱だけではなく多彩な出し物で、見る方々も楽しい。横浜でも開催するように広がってきている。今年 51 名が横浜に行くことになった。おもしろい展開が起きてきている。鼎文化センターは古くスロープが無いので、高校生が参加者の案内をしてくれている。

(桑原委員) 高齢者の方は、自分に出来るのか、出演してよいのかという不安がある。高齢者でなくては困るのだという状況を創り出すことも公民館の役割。高齢者でなければという経験。動く事が困難であれば、若い人に補ってもらおう。逆に高校生や小中学生は、お手伝いすることで、自分たちの役割を感じる事ができるし、高齢者の方の経験の凄さを学ぶよい機会となると思う。高齢者は若い人と接点を持つ事で元気になる。公民館活動やコミュニティスクールの活動の中で結びつくことができたなら良いと思う。

(武分委員) 高校生・大学生は、実際に話をしていく機会が少ない。世代をつなぎ、世代間の交流を意識した取組を是非してほしい。

⑤平成 29 年度飯田市公民館基本方針・計画について

※事務局より資料に基づき説明

(木下委員) その時々の課題については、重点目標を掲げて推進していくことで、今年度はコミュニティスクールを重点的に取り上げて、進めていくという事だと思うが、平成 28 年度重点目標の(2)をなぜカットしたのか。平成 22 年度の運審では、寺中構想の原点にかえて、文化教養だけではなく、産業経済振興の視点からも公民館活動を積極的に進めていくべきという答申をした。今年度の県の公民館大会のテーマも寺中構想を取り上げた。(2)は、寺中構想を重視しての項目だと思っていたが、それを今年度削除した理由は何か。

(木下副館長) 重点目標は、具体的な事業を展開していくものとして捉えており、基本的なことに関わる事は、基本方針の 1 めざす都市像についての記述に集約をしたため、重点目標

から除いた。

(細山委員) 重点的に具体的に取り組む事から、基盤の部分に盛り込んだということになる。

(木下委員) 29年度は、教育振興基本計画に掲げられているコミュニティスクールに重点目標が傾斜しているということの解釈でよろしいか。

(木下副館長) 第2次教育振興基本計画策定には、公民館運営審議会の代表として長谷部会長に出席いただいた。第1次と大きく違うことは、審議会の皆さんの意見を白紙から積み上げて作ってきた方針であるということ。その中で、公民館や社会教育が重要であることの意見を多数いただいている。計画の中に、公民館の運営原則を盛り込んである。振興計画の中での公民館の位置づけは重くなったという認識である。12年間の計画の前期4か年で重点的に取り組む事として、3つの重点を掲げた。一つ目は、地域と共に歩む学校づくり、二つ目は地球的な視野をもって地域で行動する人材育成のためのL G飯田教育、三つ目はふるさと意識の醸成である。これは、学校のみのも目標ではなく、大人も含めたものである。コミュニティスクールを核として、学校教育と社会教育が融合していくことが大事なことである。公民館としてもこの教育振興基本計画を大事なものととらえて、重点目標の(1)へ、またコミュニティスクールを(2)に盛り込んだ。

5. その他

※第64回長野県公民館大会と解体新書塾の報告書について、事務局より紹介。

※解体新書塾は、他地域の自治体職員と飯田市公民館職員が互いに学びあうことを目的としている。尼崎市職員が、飯田市へ派遣されることとなる。

※当運営審議会は、2年任期であり次年度もお願いすることとなるが、保護司会代表としてご出席くださっている小林賢二委員が変更となる。他の団体選出についても、変更となる場合があると思われるので、来年度事務局より確認をさせていただく。

※各地区公民館長は、18地区が改選期であるが、今年度末で9名の館長が退任される。21名の公民館主事のうち4名が転出入となる。木下が副館長職を退職する。後任は、松下参事が副館長職を兼任することとなる。社会コーディネーター中村が退任する。

(会長より) 全国、県の中で飯田の公民館を知らしめた木下副館長の実績は大きい。

4月からは県直属と聞いている。飯田の誇りとして送り出したい。

6. 閉会(平田館長)

(平田館長) 本日は、熱い議論、ご意見、ご感想、公民館へのエールを具体的にいただき感謝申し上げます。未来に向けての足掛かりをご示唆いただき、やりがいを感じている。本日のご意見を大事にして次年度につなげていけるよう頑張りたい。本日はありがとうございました。